

## 広報・教育部門

応募事例名

# 魅せて、伝えた“北九州市の街を守る底力”雨水貯留管 ～「PR動画公開」と「管内での出前授業」～

応募団体名)北九州市上下水道局

## 応募事例の概要

北九州市では、豪雨対策として雨水管や雨水貯留管の整備などを進めているが、それに加えて**市民一人ひとりの「大雨への備え」**が重要であると考えている。そのような中で、市民に「大雨への備え」の大切さを知ってもらう取組として、当時完成間近であった大規模施設である「北九州市昭和町雨水貯留管(内径3m、延長1.5km、貯留量9500m<sup>3</sup>)」を上手く活用できないかということがきっかけとなり、**建設中のこのタイミングで雨水貯留管を最大限活用した広報活動を展開し**、市民、特に子どもや若年層に豪雨対策に対する理解と関心を深めてもらおうと考えた。

### 1. 雨水貯留管のPR動画公開

中高生や大学生などの若年層をターゲットとし、興味を惹きつけるコンテンツを取り入れつつ、インパクトのある動画を目指して制作した。

#### ①タイトル「下水道管をスケートボードで走ってみた」(再生回数6,048回)

東京オリンピックで盛り上がりを見せたスケートボードに着目し、雨水貯留管内をスケートボード強化指定選手が滑走することで、話題性のある動画を制作した。

#### ②タイトル「大雨を謎の地下トンネルに追い詰める！」(再生回数12,822回)

市民に迷惑をかける大雨を“悪者”、雨水貯留管を“ヒーロー”に例えて、ヒーローが悪者を追走して捕まえるストーリーとすることで、雨水貯留管の役割(大雨を管内に閉じ込めて街を守る)をコメディタッチで表現した。

#### ③その他(「大雨から街を守る」「360度VR映像で体感」「大雨への備え」)(計5,127回)

雨水貯留管の構造や仕組みを模式図やVR映像等で解説する動画や、防災・減災に向けた自助活動を紹介する動画を制作して、市民啓発を進めた。



### 2. 雨水貯留管内での出前授業(令和4年6月15日実施)

小学4年生(50名)を対象に、特別な体験を通して下水道に興味をもってもらうことをねらいに実施した。

#### ①雨水貯留管内での授業(講師:市の若手職員)

自宅のできる水のうの作り方や避難方法等を学習。

#### ②雨水貯留管内面への描画

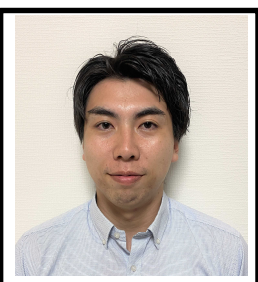
子どもたちが将来の夢や希望等を自由に表現。



## PRポイント

YouTubeで公開したPR動画の再生回数は、動画5本で**計23,997回**(高評価1,135件)(令和5年6月19日現在)と、多くの方に見てもらっている。また、**テレビ2社、新聞3社、ネットメディア4社**と多くのマスコミに掲載された。公開にあたっては、9月10日の「下水道の日」に併せて公開することで、マスコミに取り上げてもらいやすくする工夫を行い、より市民の目に触れる機会を増やすことに努めた。制作にあたっては、地元大学の団体と連携して意見交換会を複数回実施し、動画のシナリオ制作時や仮編集時など、段階的に意見をもらうことで、若者の感性を動画に反映させた。

出前授業では、下水道に関心を持ってもらうことで、**将来下水道の仕事に携わりたいなどの意見**をもらえた。



上下水道局下水道整備課  
住吉 薫

## 取組みに関するエピソード

PR動画の制作にあたっては、まず動画を見てもらうことを最重要と考え、**雨水貯留管内でスケートボードで滑走するという前例のないであろうアイデア**を生み出し、形にすることができました。しかし、インパクトのみのメッセージ性の無い動画にならないように、**雨水貯留管の規模感や役割などがしっかり伝わる内容**にするため、何度も動画の修正を重ねました。

上下水道局ホームページURL: <https://www.city.kitakyushu.lg.jp/suidou/s01201011.html>

出前授業では、**子どもたちがわくわくするような体験**を織り交ぜながら下水道を学ぶことで、学習したことを覚えてもらえるように工夫しました。

